

陣ノ内城跡とは？

令和3年10月に国の史跡に指定されました。

陣ノ内城跡は、熊本県甲佐町の緑川と流域の平野を見下ろす平坦地上に立地しています。

肥後国における中世城館の中でも突出した規模を持つ保存状態が良好な城跡で、水陸交通の要衝に長期間にわたって継続的に維持されたと考えられ、阿蘇氏から豊臣系大名による肥後国支配へと転換する時期の政治的、社会的状況を考える上でも重要な城跡です。



現時点の調査成果



陣ノ内城跡に残る堀と土塁

これまでの陣ノ内城跡

陣ノ内城跡からは、縄文時代から江戸時代までの歴史を示す遺構や遺物が検出されています。また、陣ノ内城の立地が江戸時代以降の甲佐の町の形成に大きな影響を与えたことが分かっています。そこで陣ノ内城跡と甲佐町の出来事について、下表のとおり整理しました。

時代	陣ノ内城跡と甲佐町の出来事	
縄文	10,000年～4,000年前	生活の痕跡が残る
弥生	2,000年前	生活の痕跡が残る
古墳	1,400～1,500年前	西側斜面に横穴墓が造営される
平安	保延3年(1137)	甲佐社の名前が古文書で確認される
鎌倉	永仁元年(1293)頃	竹崎季長が蒙古襲来絵詞を甲佐社に奉納
室町	12世紀～	阿蘇氏時代の様相を窺える遺構・遺物が残る
戦国	延元3年(1338)	恵良惟澄の本拠「甲佐城」を攻められる
安土桃山	天文16年(1547)と同22年(1553)	下豊内の逆修碑建立
	天正13年(1585)	「甲佐の囲」落城
	天正16年(1588)	小西行長、甲佐を領有
	慶長5年(1600)	関ヶ原合戦で小西氏滅亡
江戸	慶長13年(1608)	鶴ノ瀬堰、甲佐井手(大井手)完成
	寛文9年(1669)	在町岩下町成立
明治	文政7年(1824)	上井手(下豊新井手)完成
	明治8年(1875)	緑川製糸場設立
昭和		古墳時代の横穴墓を改変した防空壕が造営
	昭和19年(1944)	軍需工場工事開始
	昭和25年(1950)	筏流しが九州電力塚瀬ダム(美里町)の建設によって終止符
	昭和55年(1980)	町指定文化財に指定
平成	平成14年(2002)	地形測量調査、試掘の調査を3ヶ年実施
	平成20年(2008)	調査を5ヶ年にわたり実施(発掘調査、石造物調査、登城道調査、聞き取り調査、文献調査)
	平成26年(2014)	「陣ノ内館跡」報告書を発行
令和	令和2年(2020)	遺跡の名称を「陣ノ内館跡」から「陣ノ内城跡」にあらため「陣ノ内城跡」総括報告書を発行
	令和3年(2021)	陣ノ内城跡史跡指定・シンポジウム開催
	令和6年(2024)	史跡陣ノ内城跡保存活用計画策定

史跡の活用に資する要素

史跡の価値

陣ノ内城跡の本質的価値を、年表とあわせて整理しました。

1 小西氏時代の城郭の様相を顕著に示す遺構・遺物

陣ノ内城跡は堀と土塁が明瞭に残り、その規模は東西210m以上、南北190m以上の北西と南東に虎口をもつ方形の城跡です。その規模は中世の阿蘇氏の城館をはるかに凌ぎ、主郭を直線的で屈曲した堀を用いて明確に区分する構造は、他の城郭との比較から、小西行長による築城と考えられます。陣ノ内城跡は小西行長の城郭を現在まで良好に残す貴重な城郭といえます。

2 豊臣系大名による肥後国支配へと転換する時期の政治的、社会的状況を知るための価値

小西氏の城郭はいずれも戦国時代の領主やその有力家臣の城の近くに築城しています。陣ノ内城も200m南方の松尾城の近くに築城されており、豊臣系大名が新たな領国に入る際の統治の在り方の一つを知ることができます。

3 阿蘇氏時代の様相を窺える遺構・遺物

陣ノ内城跡では12世紀以降の貴重な貿易陶磁器が出土しています。この時期は阿蘇氏が甲佐を統治した時期であり、陣ノ内城跡の場所は阿蘇氏統治の頃から権力者によって利用されていたと考えられています。



4 継続的に利用された緑川筋の水陸交通の要衝としての価値

陣ノ内城は、河川交通の出発点に位置し、小西氏の本城の宇土城(宇土市)と支城の矢部城(愛藤寺城山都町)を結ぶ領国内の中継地に築城されました。また、益城郡を治めた阿蘇氏にとっても熊本平野に進出する重要な場所でした。これらのことから、城跡のある場所は水陸交通の要衝に所在し、有力者によって継続的に利用されたことが明らかになりました。

5 緑川の流れと緑川により形成された地形

約9万年前、阿蘇からの火砕流でできた地形が浸食され、陣ノ内城跡が立地する「免の山」が形成されました。この平坦な地形と川を眺める場所があったことで、陣ノ内城が立地しました。